



## おく歯も、最後はぬけてしまうの

### 子どもの歯(乳歯)は全部ぬけてしまう

子どもの歯(乳歯)は全部で20本ですが、それが大人の歯(永久歯)になるときは、おくのほうにある歯(おく歯とはいわない)も全部ぬけて、生えかわります。

大人の歯になると、おく歯が生えてきて、本数も多くなり、ふつう、全部で32本になります。しかし、中には、いちばんおくに生えてくる、「親知らず」という歯が生えてこない人がいます。そういう人の歯は、全部で28本です。

しかし、大きな大人の歯に生えかわると、もう、歯は生えかわりません。

大人の歯(永久歯)になってから生えたおく歯も、虫歯や歯そうのうろうろなどの、歯の病気になるなければ、ぬけることはないのです。

### 大人の歯に生えかわるのは

子どもの歯は、だれでも一度ぬけて、大人の歯に生えかわります。子どもの歯の下に、大人の歯ができてくると、子どもの歯はおし上げられ、ぬけてしまうのです。

赤ちゃんや6才くらいの子どもの頭と、大人の頭の大きさを比べると、ずいぶん大きさがちがいます。頭が大きければ、歯の生えているあごも、当然、大きくなります。

歯は、すき間なく、あごの骨に並んでいなければなりません。ところが、小さい子どものときに生えていた小さい歯は、あごが成長して大きくなっても、ほとんど成長しないため、そのままでは、すき間だらけの歯になってしまいます。そのため、大人のあごの大きさに合わせた、大きな歯に生えかわるのです。そして、歯は、大人のあごの大きさに合わせた、大きな歯になると、もう、生えかわる必要がないため、生えかわらないのです。

(監修・保志 宏)

